慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	台湾におけるムスリム移民コミュニティの変容と宗教空間の再編に関する人類学的研究
Sub Title	
Author	高橋, 萌(Takahashi, Moe)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2020
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.90 (2021.) ,p.92- 95
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2019年度博士課程研究支援プログラム研究成果報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000090-0092

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

台湾におけるムスリム移民コミュニティの変容と宗教空間の再編に関する人類学的研究

高橋　萌

1.　はじめに

本研究の目的は，20万人以上のインドネシア人ケア労働者を受け入れる台湾を事例に，住み込みで働くインドネシア人女性労働者たちによる宗教実践の在り方を考察する。

社会学・人類学におけるケア労働者に関する研究は，先進諸国がケアレジームの維持を目的に安価な労働力を海外から輸入するという不均衡な国際的分業体制に警鐘を鳴らし，その移住過程における問題や雇用主との関係をめぐる交渉や抵抗，社会運動の香港における展開［Constable 2007］，台湾で働くケア労働者の移住経験がもたらすアイデンティティの変容［藍 2002］に着目した研究，雇用主と労働者との抑圧的な権力関係のもとで，シンガポールで働くケア労働者が行う弱者の抵抗様式［Scott 1985］を記述したものなどがある［上野 2009］。近年の研究では，ケア労働者による家族との親密圏の構築，友人とのつながりの維持，ケア労働者と雇用主との関係を調停しうるものとして，携帯電話やスマートフォンなどの個人で携帯可能な「小型化されたモビリティーズ［アーリ 2010＝2016］」が注目されている［藍 2008：237–243; 上野 2011］。さらに，携帯電話を獲得することがもたらすケア労働者たちのアイデンティティへの影響［上野 2011: 143–147］についても議論を展開している。しかし，本研究が示すように，彼女たちがデジタル技術を通じて行う実践は家内空間における雇用主との関係の組み替えや，家族や友人とのネットワーク形成を通じた親密性をめぐる交渉のみではなく，イスラームの礼拝や説教をも含みこむ。そこで，本研究では，インドネシア人ムスリムのケア労働者たちが仕事の合間に参加するサイバー空間を介したイスラーム勉強会のあり方に注目する。

2.　研究目的と調査方法

2019年6月から2020年12月までの間，断続的に行った台湾でのフィールドワーク，インタビューに基づく。インドネシア・イスラーム団体での参与観察，ケア労働者やケア労働者を雇用する雇用主への断続的なインタビュー調査を実施した。本報告はその成果の一部である。

3.　調査結果

3-1.　変容する高齢者介護の現場とスマートフォン

台湾では介護施設の設置に対する法律の規制が強く，高齢者介護のほとんどが在宅で行われる。筆者が対象とするインフォーマントの家庭は高齢者介護のためにケア労働者を雇っている場合が多い。住み込みで働くケア労働者たちが携帯電話でインドネシア語やジャワ語で話す様子は住宅地や高層マンションの広場などを中心として幅広く見受けられる。高齢者の散歩や歩行のリハビリに付き添うために屋外に出ている間，携帯電話で友人と通話を楽しむのである。以前はケア労働者たちが同胞と結託して雇用先から脱走してしまうことを防ぐため，雇用主が同胞との連絡手段である携帯電話を取り上げてしまうこともしばしばあったが，現在ではほとんどのケア労働者が自分の携帯電話を所持している。その背景

には，近年ケア労働の中心が高齢者介護に絞られつつあること，対応が難しい高齢者介護の仕事を押し付け，行動を束縛すれば，住み込み先を変えられる可能性が以前より高まっていることと関係している。少しでも長く働き続けてもらうために労働者の行動の自由を許容範囲内で認めるようになっている。ケア労働者を家庭に雇い入れて10年以上が経つという女性の家では，毎日のようにケア労働者が携帯電話で連絡を取り合っているという。このように，高齢化によるケア需要の高まりはケア労働者と雇用主との関係を変えつつある。

3-2.「聴く」という行為を通じた倫理観の教化を目的としたイスラーム勉強会

ケア労働者たちが直面するケア労働の困難さは雇用主との関係だけではなく，仕事内容それ自体にも起因する。労働環境の苦しさから，脱走する労働者も後を絶たない。この状況を改善するために，支援活動や自助活動を展開しているのはイスラーム系の団体である。しかし，その活動の中心は台湾にすでに存在するモスクでは行われず，台北市内に設けられた事務所，主要都市の駅前，そしてインターネット上を中心に展開されている。台湾の主要都市にあるモスクには，インドネシア人ムスリムを中心に，サウジアラビアやモロッコなどのイスラーム諸国からの移民が集まるが，その大半は留学生や高学歴を有する移民とその家族であり，ケア労働者が台湾の既存のモスクに足を運ぶことはほとんど見受けられない。他方，近年，インドネシア人が建設したモスクが漁港付近に2つ，工場地帯に1つ建設されており，主に男性労働者たちが礼拝を行ったり，休憩場所として利用されている［小池2017］。しかし，女性ケア労働者が集まる様子はあまり見られない。台湾人家庭で台湾人の時間軸に沿って労働に従事しており，礼拝やモスクで行われる活動に参加することは極めて難しい。

支援活動の中でも重要な比重を占めるのが，スマートフォンで閲覧可能なSNSアプリを用いたイスラーム勉強会である。イスラーム勉強会のSNSグループは参加者の社会経済的地位に即して多種多様に存在するが，本研究が対象とするグループの利用者は女性が中心である。このグループは台湾人の家庭でケア労働者として働く女性たちを中心に500名近くが加入している。ムスリムの女性たちは男性が集まる場所に積極的に参加しない場合もある。SNSアプリを利用したイスラーム勉強会や礼拝は，家から出てモスクに行くことができず，インドネシア人ムスリムの知り合いが身近にいなくても説教や礼拝を聞くことができる有効な手段である。また，参加者全員は本名ではなく，そのSNSのアカウント名を用いるため，事実上匿名で参加することが可能であり，自身の身元を知られる危険もない。自身もケア労働者として働き，このSNSグループの管理に関わる女性は，長年ケア労働者として働いてきた経験を生かして，雇用主とのトラブルを抱える他の女性たちの相談に乗っているという。このように問題を抱えている労働者が労働相談を引き受ける体制もあり，イスラームとは直接関わらない機能も併せ持っている。こうした実践は，ムスリムたちの間で，ケア労働者の精神的な孤立を防ぎ，「聞く」ことを通じてイスラームにおける寛容さを教化するダアワとして認識されている可能性がある。これらを目的に活動を展開しようとするムスリムたちの増加は，再生産労働のグローバル化に伴って，1990年代以降のインドネシアにおけるイスラーム復興の流れが台湾に持ち込まれ，新たな社会活動が非イスラーム地域で展開される様子を示している。

4.　結論と今後の課題

イスラームとメディアとの関係を「説教を聞く」と言う行為を事例に研究してきたハーシュキント

は，エジプトに暮らすムスリムたちがカセットテープに吹き込まれた説教を聞くことで，敬虔な感性を構築する様子を記述し，彼らが実践する行為を「持ち運び可能な自己修養の技術」と言及した［Hirschkind 2006: 67–104］。本研究の調査結果は，ハーシュキントの言及に整合的な可能性があり，台湾で再生産労働のグローバル化とともに，イスラーム的なケアの実践がなされている可能性が指摘できる。

SNSでのイスラーム勉強会はともすれば信仰や礼拝実践が個人化しているとも解釈可能であるかもしれない。しかし，重要なのは各個人が住み込み先から500名規模のグループにアクセスし共に礼拝や説教を聞き，コーランを学び合う様子は，インターネット空間によって可能となる参加者相互の双方向的な関係性の元に成り立つという点である。この点で，ケア労働者たちの実践はネットワーク化された個人主義を可能とするデバイスを介して行われる極めて集団的な活動と言える。

しかし，本報告には多くの課題が残されている。これまで，このイスラーム活動を運営する人々を中心に聞き取りを行い，活動の背景や運営方法について調査を行ってきた。今後の研究が見ていくべきなのは活動に参加するケア労働者たち自身であり，彼女たちが関わる宗教活動の実態やその過程である。今後は上記の活動に参加する女性たちを中心に，上述したイスラーム活動に参加する動機や仕事における雇用主との関係，台湾入国前後の生活などについて集中的な聞き取り調査を継続し，上記のような宗教活動が展開される背景，彼女たちにとっての活動の意味を深く掘り下げて，明らかにしていきたい。しかし，ケア労働者は休日がほとんどなく，事務所で行われるイベントに参加する女性も数限られているのが現状である。対面でのインタビューを継続的に行う時間を確保するのが難しく，調査方法を柔軟に検討する必要がある。また，その際に注意しなければならないのはメディアを介した宗教実践はイスラームに限ったことではなく，上述したような一般信徒たちによるグループを介したやりとりは他の宗教でも見受けられることである［Hirschkind 2011: 18］。しかし，アーリ［2010＝2016］も指摘するように，デジタル技術が音声や言語を通じたコミュニケーションだけではなく，より多彩な実践が繰り広げられる空間を構成する可能性を無視することはできないだろう。

5.　関連業績

今後実施予定

参考文献

上野加代子
2009 「抵抗のストラティジー―シンガポールの家庭で就労する外国人家事労働者―」『立命館言語文化研究』20（4）: 9–38.
エリオット，アンソニー，アーリ，ジョン
2010 『モバイル・ライブズ「移動」が社会を変える』遠藤英樹（訳）ミネルヴァ書房.
2011 『国境を越えるアジアのケア労働者　女性たちの生活戦略』世界思想社.
小池誠
2017 「異郷に「ホーム」を作る―台湾におけるインドネシア人ムスリムの活動」『桃山学院大学総合研究所紀要』43(1): 213–235.
藍佩嘉
2002 「跨越國界的生命地圖：菲籍家務移工的流動與認同」『台灣社會學季刊』48: 169–218.
2008 『跨國灰姑娘當東南亞幫傭遇上臺灣新黨家庭』行人文化實驗室.
CONSTABLE, N.
2007 Maid to Order in Hong Kong: Stories of Filipina Workers. Ithaca: Cornell.

HIRSCHIND, C.
2006 The Ethical Soundscape: Cassette Sermons and Islamic Counterpublics. Columbia University Press.
2011 Experiment in Devotional Online: the Youtbe Khuṭba. International journal of Middle East Studies 44(1): 5–21.
SCOTT, James, C.
1985 Weapons of the Weak: Everyday Forms of Peasant Resistance. Yale University Press.